

(1) 子どもたちが安全・安心に学べる学校						
①学校教育全体を通して、生徒自ら危険を察知・回避する力を育成する。 ・地震の体験を元に、安全確保について生徒同士が話し合う機会を設定する。						
②生徒の変化を敏感に把握し、いじめ等を見逃さない。 ・毎朝、対面で声かけを行い、個々の生徒の様子を把握する。						
③教職員の危機管理意識を磨き、実効性のある仕組みへと常に見直す。 ・安全・安心な教育環境の構築のため。現状に即した訓練実施やマニュアルの見直しを行う。						
		質 問 内 容	判 定		R 6 中 間	
教 職 員	①	学校教育目標を達成するための教育活動を実践している。	A	100.0%	A	100.0%
	③	生徒の様子の小さな変化にも気付くように意識している。	A	100.0%	A	100.0%
	④	各種アンケートをもとに、人間関係づくりに取り組んでいる。	A	91.6%	A	100.0%
	⑤	危機管理意識を持って教育活動を行っている。	A	100.0%	A	100.0%
	⑥	生徒自らが危険を察知・回避する力を育成している。	B	83.3%	B	84.6%
生 徒	B3	学校へ行くのは楽しいと思う。	B	79.7%	A	86.4%
	B4	いじめはどんな理由があってもいけないと思う。	A	94.3%	A	94.3%
保 護 者	①	お子さんは、学校へ行くのが楽しそうだ。	A	87.2%	A	93.2%
	②	学校は、生徒の安全を守るために努力している。	A	97.8%	A	95.9%
	③	学校は、いじめや問題行動の未然防止・早期発見に努めている。	A	89.3%	A	91.8%
	④	学校は、何事に対しても誠実に対応している。	A	93.6%	A	94.5%
	⑤	教職員は、生徒の気持ちや内面を理解しようとしている。	B	82.9%	A	90.4%
判定基準		A（肯定回答 85%以上）、B（70%以上）、C（50%以上）、D（50%未満）				

【考察・改善】

- 本校のスクールカウンセラーに加え、派遣カウンセラーを活用し、心配な生徒との面談や「こころのサポート授業」を行った。特に12月には震災のアニバーサリー反応に備える授業を行った。また、教職員も複数回、震災後の心理についての研修を行い、学校としてアンテナを高くし、生徒たちの様子を見ていくなど、どのように対応していくかを共有した。
- 2学期と3学期も引き続き、休み時間に火災想定避難訓練を実施した。2学期はやや真剣さに欠けた訓練になってしまった。しかし3学期は2学期の反省点を生かし、危険を自分事として捉え、どう行動すべきかを考えて、個々で自己決定することができた。
- △1学期と同様に、アンテナを高く、生徒の様子を観察し、いじめの積極的認知を行ってきた。じぶんログ（生活ノート）やアンケートなどを活用しながら、生徒理解に努めてきた。また、今年度は、生徒たちの人権意識が高まるように生徒会による人権集会も行った。しかし、生徒たちの人権意識や言語環境には課題が残る。「学校に行くのが楽しいと思う」生徒を増やすために、教職員と生徒が一丸となって安全・安心な学校づくりを行っていく必要がある。

(参考 いじめ認知件数 12件 不登校生徒数 6人)



【こころのサポート授業】



【避難訓練(火災)】

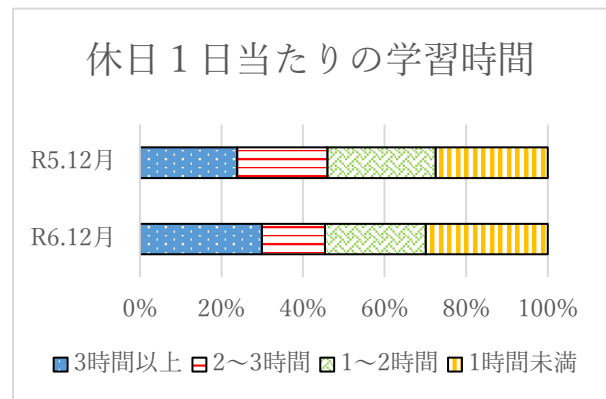
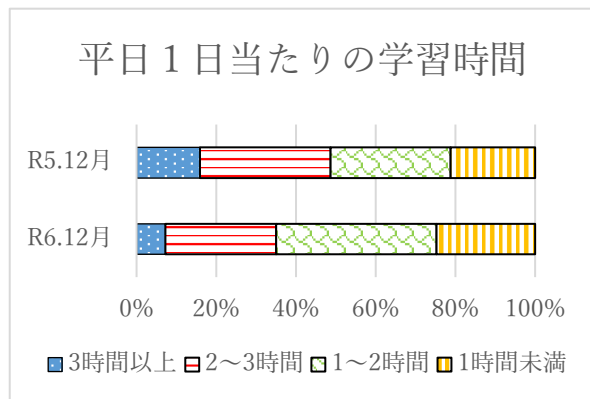


【生徒会による人権集会】

(2) 生徒の確かな学びを保障する学校					
①生徒一人一台端末を積極的に活用し、GIGAスクール構想の実現に努める。 ・積極的な授業実践と研修に取り組み、効果的な活用方法を模索する。					
②主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善を推進する。 ・学ぶことの楽しさを体得できる学習活動を工夫する。 ・生きて働く知識・技能の習得を確かなものにする。 ・生徒の様子、変容を視点とした、研究授業を実施する。					
③体験活動や総合的な学習の時間を活用して、教科等横断的な学びを推進する。 ・地域の資源を生かした、海洋教育の工夫改善に取り組む。					
		質 問 内 容	判定		R 6 中間
教 職 員	②	学校生活において生徒に目標を持たせ、その目標を達成するための具体的な働きかけを行っている。	A	100.0%	A 100.0%
	⑧	各種学力調査の分析を生かし、学習指導の工夫・改善に努めている。	A	100.0%	A 100.0%
	⑨	授業で、思考を伴うアウトプットができる場面を設定している。	A	100.0%	A 100.0%
	⑩	授業で、生徒は思考を伴うアウトプットをしている。	A	100.0%	A 92.3%
	⑪	主体的、対話的で深い学びが実現されている。	B	75.0%	B 84.6%
	⑫	自然や日常生活、社会との関わりを意識した学習内容も取り入れている。	A	100.0%	A 100.0%
	⑬	指導者として意図をもって、授業で一人一台端末を活用している。	B	91.7%	A 92.3%
	⑭	体験学習・総合的な学習の時間で、教科等横断的な学びを関連づけている。	B	83.3%	B 75.0%
	⑮	授業の約束4か条を意識し、指導している。	A	100.0%	A 92.3%
	⑰	生徒の家庭学習の状況を把握し、学習時間が増えるように繰り返し指導している。	A	91.7%	B 84.6%
生 徒	A1	授業では、課題に対して、自分で考え、自分から取り組んでいると思う。	A	88.7%	A 89.8%
	A2	授業では、ペアや全体に対して伝えたり、発表したりする場面がある。	B	73.0%	A 86.4%
	A3	授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思う。	A	93.2%	A 89.8%
	A4	友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聴くことができていると思う。	A	98.8%	A 97.7%
	A5	授業では、自分の考えを他の人に伝えたり、書いたりすることができていると思う。	B	83.1%	A 86.4%
	A6	生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。	B	82.0%	A 87.5%
	A7	学習の中でコンピュータなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思う。	A	97.7%	A 97.7%
	B5	家の人と学校の出来事や将来のことについて話をする。	B	71.9%	B 79.5%
	B6	携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方について家の人と約束したことを守っている。	C	69.6%	C 69.3%
保 護 者	⑥	授業はわかりやすいと言っている。	B	80.8%	B 72.6%
	⑨	お子さんは、携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方について家の人と約束したことを守っている。	D	46.8%	C 57.5%
	⑩	家庭では、テスト10日前から、9時以降、3ノ一（ノーテレビ、ノーゲーム、ノーSNS）に取り組んでいる。	D	21.2%	D 43.8%
	⑪	家庭では、学校の話などの会話をよくしている。	B	70.2%	B 71.2%
判定基準		A（肯定回答 85%以上）、B（70%以上）、C（50%以上）、D（50%未満）			

家庭学習		30分以内	30分~1時間	1~2時間	2時間以上
生徒 B7	平日に1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか。	24.7% (17.0%)	41.6% (37.5%)	25.8% (38.6%)	7.9% (6.8%)
保護者 ⑭	お子さんは、平日に1日あたりどれくらいの時間家庭学習をしていますか。	21.3% (23.3%)	44.7% (42.5%)	23.4% (30.1%)	10.6% (4.1%)
テレビ、ゲーム、インターネット（SNS、動画視聴等）		1時間以内	1~2時間	2~4時間	4時間以上
生徒 B9	平日に1日あたりどれくらいの時間、テレビやゲーム、インターネットをしますか。	20.2% (10.2%)	15.7% (23.9%)	40.5% (43.2%)	23.6% (22.7%)
保護者 ⑮	お子さんは、平日に1日あたりどれくらいの時間、テレビやゲーム、インターネットをしますか。	10.7% (9.5%)	29.8% (45.2%)	53.2% (42.4%)	6.4% (2.7%)

【生徒の定期テスト前の学習時間調査結果(ファイト表より)】



【考察・改善】

- 授業のねらい達成のために「アウトプット」を手段にして、授業改善に取り組んだ。特に今学期は、「生徒に委ねる」時間を設定したことで活発に意見が交わされる授業が増えてきた。(生徒 A3)
- 各種学力調査の分析を生かし、学習指導の工夫・改善に努めてきた。直近の総合学力調査では、A層(学力上位層)の増加、D層(学力下位層)の生徒の減少が見られた。
- 公開授業研究会を全職員が行うことで、授業改善に向けて協議した。以前は「全員アウトプット」が共通実践であったが、それが「思考を伴うアウトプット」に変化してきた。「思考を伴うアウトプット」についてより具体性をもって取り組んだことで、これまでよりも工夫が必要であることを認識してきた。(教職員⑨)
- △「生徒に委ねる」時間を設定したことにより、全体に発表する機会は減少してきている。ICTに頼りすぎず、ペアや学級全体への「アウトプット」の設定も重要である。そのためには授業のタイムマネジメント、単元構成にさらなる工夫が必要である。(生徒 A2)
- △家庭学習の習慣化についてはまだまだ課題が残る。指導内容としては、授業に確実につながるようなものを出すことで必要性を感じられるものにしたり、既習事項の復習(スパイラル)に重きを置いたり工夫している。休日1日当たりの学習時間は昨年度から増加傾向がみられるが、平日1日の学習時間は昨年度・今年度の7月と比較しても減少傾向となった。(学習時間グラフ)
- △平日のテレビ、ゲーム、インターネットの時間は減少傾向にあるものの、その使い方について生徒、保護者とも課題があるとしている。生徒指導と連携し、デジタルシチズンシップ教育にも取り組んでいかななくてはならない。(生徒 B6・保護者⑨⑩)

【公開授業研究会】



(3) 教師の資質・能力向上への意識が高い学校						
①ワークライフバランスを向上させ、子どもと向き合う時間の確保に努める。 ・校務支援システムを活用して業務の効率化を推進し、遅くとも午後8時までに退校する。						
②人権感覚を高め、指導力を高める研修を推進する。 ・学校生活の中での教師や生徒の言葉遣いに注意を払い、適切な言語環境を整える。						
③日常的に共通理解やコミュニケーションを図る職場づくりを進める。 ・報告・協議事項は事前に起案し、校務支援システム等で周知する。						
		質 問 内 容	判 定		R 6 中 間	
教 職 員	⑬	校内研修は指導法の工夫・改善等に役立っている。	A	100.0%	A	100.0%
	⑭	学校生活の中で言葉遣いに注意を払い、適切な言語環境を整えている。	A	100.0%	A	100.0%
	⑮	日々の業務の効率化を意識し、遅くとも午後8時には退校している。	A	92.3%	A	92.3%
	⑯	日常的に共通理解やコミュニケーションを図るようにしている。	A	100.0%	A	100.0%
	⑰	報告・協議事項は、全員に周知されている。	A	100.0%	A	100.0%
生 徒	B1	自分にはよいところがあると思う。	B	79.8%	B	78.4%
	B2	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。	B	86.5%	A	92.0%
保 護 者	④	学校は、何事に対しても誠実に対応している。	A	93.6%	A	94.5%
	⑤	教職員は、生徒の気持ちや内面を理解しようとしている。	B	83.0%	A	90.4%
	⑥	授業はわかりやすいと言っている。	B	80.9%	B	72.6%
判定基準		A (肯定回答 85%以上)、B (70%以上)、C (50%以上)、D (50%未満)				

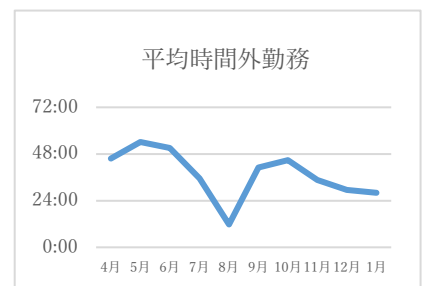
【考察・改善】

○保護者⑥「授業はわかりやすいと言っている。」は8.3%増加した。

今年度は、能登町教育委員会から「学力向上実践研究推進事業」の指定を受け、研究実践に取り組んできた。研究授業は、公開授業研究会を5回(10コマ分)開催し、町内の教職員に参会を募ることで、客観的な意見や感想をもらうことができた。また、指導主事を招き、授業整理会で指導助言いただいたり、整理会后にミニ相談会を開いたりしたことで、教師の実践意欲向上につながったものと考えられる。

○1月末までの平均時間外勤務は37時間37分であった。1学期(8月は除く)は平均46時間35分、2学期は、37時間29分と9時間6分減少した。1人で残さない体制を徹底し、声掛けし合った成果と言える。

△生徒 B1「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。」(－5.5%)、保護者⑤「教職員は、生徒の気持ちや内面を理解しようとしている。」(－7.4%)において、ともに減少した。10月の個人面談では話しやすい相手(教職員や相談員)を選んで相談する形式を取り、生徒一人ひとりの個性や特性を理解するように努めてきた。しかしながら、生徒に自分のよさに気づかせたり、フィードバックしたりする場面が少なかったと考える。改善策の一つとして、授業観察を生徒指導的要素のチェックという発想から、生徒のよさを見つけに行く場への転換を図りたい。それには、校務支援システムにある「いいところみつけ」が活用できる。生徒のよさを全教職員で見つけ、記録することで、全生徒にスポットを当てて、よさを引き出すことができるだろう。また、その機能を生かすことで、通知表とも連動でき、効率化にもつながるものとする。



(4) 地域社会の一員として信頼される学校						
①学校公開や日々の教育活動についての情報発信を積極的に進める。 ・週1回以上、学校HPを更新する。 ②学校評価は焦点化した評価項目に絞り、改善の方向や方策を提示し公開する。 ・学校評価結果を学校HPで公開し、改善の為に具体的な取組を推進する。 ③地域人材や施設を積極的に活用し、ふるさと教育の推進と郷土愛の醸成を図る。 ・各学年2回以上、地域人材を活用した授業を実施する。						
		質 問 内 容	判定		R 6 中間	
教 職 員	⑦	生徒は、学校生活を通して元気にあいさつや返事をしている。	B	76.9%	B	84.6%
	②②	地域の人材・教材を取り入れた授業を年2回以上実施（予定）している。	B	84.6%	B	84.6%
	②③	保護者・地域へ、積極的に情報発信を行っている。	A	92.3%	A	92.3%
生徒	B10	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。	C	69.7%	B	75.0%
保 護 者	⑫	教職員は、保護者との連携を密にしている。	B	80.9%	B	84.9%
	⑬	学校からの各種便りの発行やホームページの更新などは、十分である。	B	83.0%	A	87.7%
判定基準		A（肯定回答 85%以上）、B（70%以上）、C（50%以上）、D（50%未満）				

【考察・改善】

○地域の人材・教材を取り入れた授業については、各学年・各教科で工夫して取り組んでいる。1、2年生は「のと海洋ふれあいセンター」を見学し、能登の海について関心を高めるとともに学習内容を深めることができた。さらに「職業人講話」にて地域で働く方々のお話を聞いたり、能登町選挙管理委員会の方々にお越しいたき有権者事業を実施したりしている。来年度は小木中学校校区も含めた地域の人材・教材を活用し、郷土愛を育むことができるようにする必要がある。



【のと海洋ふれあいセンター見学】



【職業人講話】



【有権者事業～模擬選挙体験～】

△生徒のあいさつや返事については、中間評価より肯定的回答が低くなっている。あいさつや返事をすることの良さを実感する機会が少なく、行動につながらなかったのではないかと考えられる。教師自身が返事やあいさつを意識的に実践して見せていくとともに、あいさつや返事の意義を考えたり自分自身を振り返ったりできるようにして根気良く取り組む必要がある。

△「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」という肯定的回答が低くなっている。一方で「地域やふるさとについての学習に積極的に取り組んでいると思う」という質問については78.7%の肯定的な回答が得られている。活動に取り組む際に「活動して楽しかった」だけで終わらないように、生徒の興味や関心を高め生徒自身が問題意識をもって学習に取り組むことができるようにしなければならない。

△保護者との連絡を密に行い、連携を図るように心がけている。今後も連絡を密に行うとともに、外部機関と保護者の方をつないだり、学校としての指導・支援の方針を保護者に分かりやすく説明し協力を求めたりする姿勢を大切にしていきたい。